

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402143		
法人名	有限会社 みずほ福祉サービス		
事業所名	グループホーム「みずほ野」		
所在地	長崎県雲仙市瑞穂町西郷己797番地		
自己評価作成日	平成 28年	12月 18日	評価結果市町村受理日 平成29年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 29年 1月 31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた場所に当事業所は環境に溶け込む外観をそなえている。造園業とコラボし自然環境を活かした造作がなされている。自然の持つ癒しの部分と介護のマンパワーを融合させた昔懐かしい田舎を思い出させるサービスを理想としている。入居者の方々が滝の水音や植木を楽しむ庭園、気候が良いときには露天風呂の他、畑には四季の野菜を育てて収穫する楽しみと人の痛み、その方の想いがわかる心を持ったスタッフの育成とケアの均一化に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所のスローガン(理念)を事務所に掲示し、職員は入居者を人生の先輩として或いは親のような存在として敬いながら、その方の立場に立った支援を実践できるよう努められている。ホームの周囲は自然豊かで、木々に囲まれ、春には桜、秋には紅葉を楽しまれ、庭先の小さな滝からは心地よい音に耳を傾け、季節の移り変わりを五感で感じることができる。近隣には畑があり、収穫された野菜は食材として利用されている。又、敷地には露天風呂や職員等が休める施設があり、高校生の剣道大会が開催された際には、入浴と宿泊場所を提供されたこともある。施設のイベントとして屋外で「サンマ会」を催し、入居者はサンマに下鼓を打たれたり、毎月1日と15日及び誕生日には赤飯を用意されたりと、その方のペースに合わせながら、入居者本位の支援を実践するよう努められているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に沿って意識の持ち方や方向性のずれがないか振り返りながら入居者が安心して過ごせるよう共有して実践している。	理念はスローガンとして事務所に掲示してあり会議の時にその日のテーマとして話される事がある。入居者の立場に立って考え、自分の親の様に支援する事を目指されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅街と言えない立地環境であるが挨拶や地元自治会からの声掛け等にも協力している。	入居者が地域での祭で踊りへ参加したり、又、地域の方が雑巾を作って持って来られたり、当ホームでの「敬老会」等にも参加されている。農業高校の太鼓のボランティアや中学校の職場体験の受け入れもなされている。ボランティアで来た生徒が卒業後当ホームへ就職した事もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の中学校の福祉体験学習の受入れ地元老人会からの慰問や相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回程度で行っており、今年度は前年度の反省を踏まえて全員参加の運営推進会議を実施している。	運営推進会議には市・自治会・職員以外にも消防署・警察が参加する事もある。入居者状況や季節毎の行事について報告するなど、参加者と意見交換がなされている。職員は交代で会議に出席されている。結果は「みずほ通信」と共に家族へ報告されている。	服薬について飲み忘れや誤薬等が無いよう更に工夫し、業務で気づいた些細なリスクについてもヒヤリハットとして挙げることで、今後の事故防止及び更なる支援に繋げる事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	瑞穂町地域ケア会議や公的制度を利用されている利用者と福祉事務所との仲介役となっている。	市が運営推進会議に参加されたり、市の所長が代表と同級という事もあり良好な関係にある。「みずほ町地域ケア会議」に参加したり、福祉事務所へ足を運ばれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うことの弊害を考えて行っていない。	身体拘束について職員会議時に話されたり外部研修で学ぶ機会を持たれている。身体拘束を一切しない事により入居者の心と身体の安全を計られ、それにより職員の安心安全な介護に繋がられている。入居者の今までの生活歴によりその方に合った話し方をされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は介護者として絶対に行ってはならない行為とスタッフに話し、言葉による虐待にもお互いに気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては事業所にはまだ使っておられる方はいないが、疑問に思ったことは包括支援センターに相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関して入居者・家族の悩み問題点については、理解、納得されるまで話し合いの場を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置もしているが、ほとんどが面会時や行事の時に意見を聞ける関係づくりを気掛けている	家族がホームを訪ねて来られた際、管理者以外にも職員全員で希望・要望を聞き取られ記録し信頼関係を築かれている。又、話し方に注意され、馴れ馴れしくならず、不快な思いをさせないよう努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や普段からも関係性をよくするようにして、スタッフの前向きな意見、アイデアに対しては実践できるようにサポートするよう話している。	毎月、全員参加したスタッフ会議を行い、今年度は各自目標を掲げ、支援にあたられている。又、ケア会議も同時に行い、月毎の予定や行事についての反省、目標について話し合われている。その結果は議事録として残されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や環境に関しては事業所として無理がない程度で対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加、セミナーへの参加、スタッフ会議でも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会の参加、交流会への他施設へ声掛け参加を募っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問、施設見学をしてもらいその時に聞き取り返答を行い、少しでも安心してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネだけと会わず、ご家族にもお会いして現在の不安等解消できる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自事業所の事ばかり考えず、その人その人に合ったサービス事業所への窓口も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の元に押しつけの介護とならないように入居者の想いを考えて関係を築こうと考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これも押しつけの関係とならないように家族の思いを汲み取り入居者と家族のパイプ役になれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの場所、人との絆が切れないように出向いたり、行けない人には来訪してもらっている。	近所の方や親戚の方へも声掛けをして来てもらう工夫をされている。年一回の家族会も開催されている。ドライブでは自分の家を見に行かれる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今まで生きてきた環境等違いがあり、性格もひとそれぞれ、スタッフが間に入って調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出逢えた『ご縁』に感謝していつでも悩み、相談には対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の性格に応じた声掛け。なじみ関係になっているスタッフに代わって対応してもらったり、役割を持っていただいたりしている。	職員の連絡ノートを利用し、入居者の日常生活以外にも些細な事柄を記入し支援に活かされている。言葉が発せられない入居者には表情や普段の行動から思いを汲み取る工夫をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人にその都度聞き取り、思いに沿ったサービスの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察を行い、押しつけになって負担にならないよう、または有する力が低下しないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を行い、チームで考え独りよがりなケアプランにならないように努めている。	入居者の言葉をそのまま記録し、又、日頃の生活でテーブル拭きや茶碗洗い・洗濯物たたみ等を介護計画担当者が計画を立て、定期的に評価をされていることが窺える。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、チェック表等スタッフ全体で共有し気づきはスタッフ会議や申し送り時に話し合いの場を持っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズや思い、悩みはその都度変化していくので自事業所のサービスのみでなく他サービスへの移行、自社のサービスの多機能化も考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元、警察、消防との協力体制、地区の学校へ福祉の場を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のドクターが一番本人さんの病状を解っておられるのでかかりつけ医にかかるようにしている。	従前のかかりつけ医や協力医の下、管理者が記録に基づき受診を支援する職員へ注意点をアドバイスされていることが窺える。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や往診をお願いしているのでその時はスタッフが付いて相談や悩み等伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ドクターや看護師、地域連携室と情報交換し本人に無理がない入退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合い、急変した時は病院搬送、医療機関での看取りとなっている。	看取りに移行する場合は、病院との連携を取り、家族との話し合い、病院へ搬送されている。又、緊急時には事務所に「救命処置」の対応方法について掲示してある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の研修や避難訓練時に消防署からアドバイスを受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防学校や普通救命講習への参加、年2回の避難訓練を実施と防災訓練に対して消防署より講和してもらい、災害に対する訓練も考えている。	年2回の消防訓練は夜間想定で実施され、防災マニュアルも作成されている。立地的に近隣に居住されている方がいない為協力を得にくい、津波等の災害により避難場所となりうると考えられている。地下水の利用が可能であり、発電機も用意されている。	自然災害を想定した避難訓練等は未実施の為、まずはハザードマップを入手し避難場所への避難経路の確認等、今後対応をすすめていくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフの声掛けの仕方、トーン、態度をお互いに注意し「自分がその立場なら？」と振り返るようにしている。	管理者が以前ホテル勤務の経験があり、管理者から接遇に対するマナーについて話をされる事もある。話し方は入居者に親しみをこめ、声のトーンに注意し、大声で話し掛けない様に留意されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散髪屋買い物等の訴えがあった場合には出来るだけ対応するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても日々の業務に追われてしまいがちになりそうだがそこで振り返り入居者のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフ、家族の援助により行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所の畑で入居者と季節の野菜を作り、育て収穫し食する喜びや季節ごとの食事会を行い、楽しむことにしている。	ホーム敷地内の畑で白菜・大根・ジャガイモ等を栽培されており、入居者へ食材として提供されている。毎月1日と15日及び誕生日には赤飯が用意される。入居者により御粥・ミキサー・トロミ等の食べやすい形態で食事を用意されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護食研究会への参加、栄養士への相談、食に関してはこれから入居者の嚥下レベルの低下もあるのでソフト食、ムース食も検討必要かと思われる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフに見守り、介助にて毎食後行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立ち上がりや立位保持についてリハビリを行いトイレでの排泄を基本としている。	介護記録に日々の様子として排泄チェックを記録され、日中は時間をみてトイレ誘導し、夜間は睡眠を妨げない工夫をされている。便秘の方には病院の処方薬や必要に応じ訪問看護の支援を受けている。散歩等の運動も取り入れられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取、食物繊維の多い食事づくりを心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は毎日と心がけ、入居者の希望に沿えられるにしている。	入浴は希望があれば毎日でも可能である。又、気が会う入居者同志の入浴や長湯をされる方もいる。冬場には脱衣所のファンヒーターが用意される。季節により菖蒲湯や柚子湯を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握し個々に合わせたサイクルで支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重要性を会議、申し送り時に話し合いスタッフ全体で支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の今の能力に応じた役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良いときはホーム周辺の散歩、庭園の紅葉、畑への収穫、資源があるので日常の中で行える。	職員対応で入居者がドライブで好きな場所へ行かれたり、買い物ではお菓子や洋服等を買に行かれている。又、床屋や美容室へ行き、カラーリングされる方もいる。時には訪問美容を利用される方もいる。身体的に現在外泊される方はいない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本トラブルにならないようには預り金として預かっているが買い物時はスタッフと買い物へ行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙、なじみの方との管家は大切な事と思うので自由に書けたり、手紙を出せるように切手も準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温かい雰囲気づくりや入居者の当たり前の生活を大切にしたいと思っている。	通路には排煙を兼ねた明り取り窓があり、ホーム内は明るい雰囲気である。それぞれのユニットには畳の間があり、そこで寛がれたり、以前は洗濯物をたたむ方もいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ気の合う方々といくつかのグループに分かれても良いようにソファ、テーブル。和室とゾーンを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差もあるがなじみの品が持ち込まれたり、無い場合はスタッフの手づくりのカードや写真を置いて自分の部屋とさせていただけるよう配慮している。	ベッド・クローゼットが備え付けてあり、自宅での馴染みの品物を持ち込まれている。職員は入居者を立ちあがらせるのは大変であるが、ベッドから落下の恐れがある方にはマットレスと布団を用意し対応されている。見当識の方にはドアに目印を付け対応されていることが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	長期の入居者の方が多く建物内部の事解っておられ、新人スタッフに、その方々が教えている場面もある。		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名東棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に沿って意識の持ち方や方向性のずれがないか振り返りながら入居者が安心して過ごせるよう共有して実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅街と言えない立地環境であるが挨拶や地元自治会からの声掛け等にも協力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の中学校の福祉体験学習の受入れ地元老人会からの慰問や相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回程度で行っており、今年度は前年度の反省を踏まえて全員参加の運営推進会議を実施している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	瑞穂町地域ケア会議や公的制度を利用されている利用者と福祉事務所との仲介役となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うことの弊害を考えて行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は介護者として絶対に行ってはならない行為とスタッフに話し、言葉による虐待にもお互いに気をつけている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては事業所にはまだ使っておられる方はいないが、疑問に思ったことは包括支援センターに相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関して入居者・家族の悩み問題点については、理解、納得されるまで話し合いの場を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置もしているが、ほとんどが面会時や行事の時に意見を聞ける関係づくりを気掛けている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や普段からも関係性をよくするようにして、スタッフの前向きな意見、アイデアに対しては実践できるようにサポートするよう話している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や環境に関しては事業所として無理がない程度で対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加、セミナーへの参加、スタッフ会議でも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会の参加、交流会への他施設へ声掛け参加を募っている。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問、施設見学をしてもらいその時に聞き取り返答を行い、少しでも安心してもらえるように努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネだけと会わず、ご家族にもお会いして現在の不安等解消できる様に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自事業所の事ばかり考えず、その人その人に合ったサービス事業所への窓口も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の元に押しつけの介護とならないように入居者の想いを考えて関係を築こうと考えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これも押しつけの関係とならないように家族の思いを汲み取り入居者と家族のパイプ役になれるよう努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの場所、人との絆が切れないように出向いたり、行けない人には来訪してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今まで生きてきた環境等違いがあり、性格もひとそれぞれ、スタッフが間に入って調整している。	

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出逢えた『ご縁』に感謝していつでも悩み、相談には対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の性格に応じた声掛け。なじみ関係になっているスタッフに代わって対応してもらったり、役割を持っていただいたりしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人にその都度聞き取り、思いに沿ったサービスの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察を行い、押しつけになって負担にならないよう、または有する力が低下しないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を行い、チームで考え独りよがりなケアプランにならないように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、チェック表等スタッフ全体で共有し気づきはスタッフ会議や申し送り時に話し合いの場を持っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズや思い、悩みはその都度変化していくので自事業所のサービスのみでなく他サービスへの移行、自社のサービスの多様化も考えている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元、警察、消防との協力体制、地区の学校へ福祉の場を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のドクターが一番本人さんの病状を解っておられるのでかかりつけ医にかかるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や往診をお願いしているのでその時はスタッフが付いて相談や悩み等伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ドクターや看護師、地域連携室と情報交換し本人に無理がない入退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合い、急変した時は病院搬送、医療機関での看取りとなっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の研修や避難訓練時に消防署からアドバイスを受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防学校や普通救命講習への参加、年2回の避難訓練を実施と防災訓練に対して消防署より講和してもらい、災害に対する訓練も考えている。		

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフの声掛けの仕方、トーン、態度をお互いに注意し「自分がその立場なら？」と振り返るようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散髪屋買い物等の訴えがあった場合には出来るだけ対応するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても日々の業務に追われてしまいがちな入り居るがそこで振り返り入居者のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフ、家族の援助により行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所の畑で入居者と季節の野菜を作り、育て収穫し食する喜びや季節ごとの食事会を行い、楽しむことにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護食研究会への参加、栄養士への相談、食に関してはこれから入居者の嚥下レベルの低下もあるのでソフト食、ムース食も検討必要かと思われる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフに見守り、介助にて毎食後行っている。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立ち上がりや立位保持についてリハビリを行いトイレでの排泄を基本としている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取、食物繊維の多い食事づくりを心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は毎日と心がけ、入居者の希望に沿えられるにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握し個々に合わせたサイクルで支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重要性を会議、申し送り時に話し合いスタッフ全体で支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の今の能力に応じた役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良いときはホーム周辺の散歩、庭園の紅葉、畑への収穫、資源があるので日常の中で行える。		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本トラブルにならないようには預り金として預かっているが買い物時はスタッフと買い物へ行ったりしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話や手紙、なじみの方との管家は大切な事と思うので自由に書けたり、手紙を出せるように切手も準備している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温かい雰囲気づくりや入居者の当たり前の生活を大切にしたいと思っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>それぞれ気の合う方々といくつかのグループに分かれても良いようにソファ、テーブル。和室とゾーンを確保している。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個人差もあるがなじみの品が持ち込まれたり、無い場合はスタッフの手づくりのカードや写真を置いて自分の部屋と置いていただけよう配慮している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>長期の入居者の方が多く建物内部の事解っておられ、新人スタッフに、その方々が教えている場面もある。</p>		